はじめに

私がヘンリ・Ｊ・M・ナウエン（1932—1996）を知ったのは、アメリカに来てからでした。紹介された学術雑誌に彼の「リーダーシップ」に関する記事があり、その洞察に共鳴を覚えました。最初に読んだ彼の本は『イエスの御名によって』でした。イェール大学やハーバード大学での教授職を投げ出し、重い知的障がいのある人たちの共同体に移り住んだあと、その中のひとりと「一緒に」講演したものをまとめたものでした。私は、ナウエンの著作が彼のペン先だけから出たものでないことを知り、とても感銘を受けました。ナウエンの著作は、自らが信仰の巡礼者として生き、体験した中から生み出されたもので、私たちの信仰の歩みの導きとなるものです。

この小冊子は、ジェームス・E・アダムスがナウエンの著作から抜粋したものに基づいて、翻訳・編集したものです。アダムスは「ナウエンは読者を霊的なアップ・ダウンに、勝利と敗北に、喜びと悲しみに惹きつけたが、彼自身には惹きつけなかった。むしろ、彼自身と読者とにキリストの贖いの光を指し示した」と言っています。私たちも、ナウエンの著作を通して、キリストご自身へと導かれたいと思います。そのためにも、引用された聖句をご自分で黙想することに心がけていただきたいと思います。

これは 1918 年に初版を発行しましたが、このたび、それに手を加え、版組みを変え、改訂版として発行しました。なお、聖句は、断りのない限り、「聖書　新改訳２０１７」より引用しました。

2020 年 10 月
中尾フィリップ

あなたの真理に私を導き　教えてください。
あなたこそ　私の救いの神
私は　あなたを一日中待ち望みます。

「待つ」ことは霊的生活にとって基本的なものです。しかし、イエスの弟子として「待ち望む」のは、ただぼんやりと待っていることではありません。それは、私たちの心の中にある約束を握りしめて待つことです。その約束によって、私たちが待ち望んでいることが現在化するのです。私たちは待降節（アドベント）にイエスの誕生を待ち、復活日（イースター）の後には聖霊の降臨を待ち、イエスの昇天の後には、イエスが栄光のうちにふたたびこられることを待ちます。私たちは絶えず待っているのです。しかし、それは、私たちがすでに神の足跡を見たという確信に基づいて待つことなのです。

神を待つことは積極的に、目覚めて、喜びにあふれて待つことです。私たちは待つ間、待っているお方を覚え続けます。そして、このお方を覚える間に、キリストが来られる時に、キリストを喜んで迎えることのできる共同体をつくり出していくのです。

祈り　あなたとあなたの賜物を熱心と喜びにあふれた心で待つ方法を、主よ、あなたの恵みによって、私が習得することができますように。

主はいつくしみ深い。
主に望みを置く者、主を求めるたましいに。
主の救いを
静まって待ち望むのは良い。

私たちはどのように神を待つのでしょうか。忍耐をもって待ちます。しかし、「忍耐」は受動的なものではありません。忍耐深く待つことはバスが来るのを待つ、雨が止むのを待つ、日が昇るのを待つこととは違います。「忍耐する」とは、私たちが待っているお方のしるしをそこに見つけるために、今の時を十分に生かして生きることであり、能動的に待つことなのです。

「忍耐」（patience）という言葉は「苦しむ」という意味のラテン語の動詞 patior から来ました。忍耐をもって待つということは、今のこの時に苦しみ、その苦しみをきわみまで味わい、蒔かれた種がその地で強く育っていくのに任せることなのです。忍耐をもって待つことは、常に、私たちの目の前で起こっていることに注目し、やがて来るべき神の栄光の最初の光を見ることなのです。

祈り　主よ、私は将来をあまりに心配しすぎて、今受けている祝福に感謝することを忘れていないでしょうか。私がもっと忍耐深くなり、それぞれの瞬間に与えられる恵みを十分に生きるために、このアドベントにできる具体的なことは何でしょうか。主よ、私に教えてください。

「試し読み」はここまでです。

お気に入りましたら

ご注文ください。

Penguin Club
www.penguinclub.net